

第4期多摩区区民会議 第9回自然災害部会 摘録

□開催日時	平成25年10月30日(水) 午後6時00分～7時45分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	荒井部会長、細埜副部会長、安陪委員、石橋委員、岩崎委員、原田委員、 吉田委員(以上、自然災害部会員) 大津委員(委員長・コミュニティ部会)
危機管理担当	森田課長補佐
事務局	門間課長、奈良職員
コンサルタント	福田研究員、梅田研究員
傍聴者	1名

1 区民会議フォーラムについて

事務局が配布資料に基づき、11月23日(土)に開催される「多摩区区民会議フォーラム」の開催案を説明し、テーマ別意見交換の進め方、配布資料、役割分担等について検討した。なお、昨日開催されたコミュニティ部会で、各部会の概要説明を全体会の中で10分程度行うことが提案されたことを紹介し、それについての意見交換も行った。

当日の集合時間は、リハーサル、部会間の事前調整等を行う関係で、12時30分で了解した。

(1)全体会での部会概要説明について

事務局 全体会の「本日の進行方法」の説明が終わった後に「自然災害部会の検討経過の説明」を5分し、その後「コミュニティ部会の検討経過の説明」を10分する。各部会の概要は、会場にいる全員に聞いてもらい、その後で各部会に分かれて部会検討に入る方法はどうか。当初は、部会検討へのテーブルの移動時間を10分取っていたが、受付後テーブルに着く際に、部会の内容を説明し、冒頭から関心のあるテーマのテーブルに着席してもらうように案内する。この進め方で了解をいただけるか？

一同 了承

(2)役割分担

荒井部会長 資料4ページ「自然災害部会意見交換の進め方(案)」では、私が90分間説明と進行をするようになっている。内容ごとに役割を分担した方がリズムが出て良いと思うがどうか？

原田委員 第3期のフォーラムでは部会長が全てを説明した。今回も部会長がすべて担当してもらえると良い。部会長が答えきれないものがあれば、部会員が補足をする。

荒井部会長 全体会での検討経過の説明5分間は私が説明する。テーブルに分かれてから、パワーポイントはどこに置くのか？

事務局 パワーポイントは一台しかないのだから、パワーポイントで資料を作成しているが、配布資料として印刷し配る。

荒井部会長 その1～その3まで配布資料に基づき順番に私が説明するので良いか。

一同 了承。よろしくお願ひしたい。

荒井部会長 HUG体験の紹介も私がやった方が良いか？

安陪委員 HUGについては、本来は委員が説明すべきだが、役所側の詳しく知っている人が説明した方が良いのではないか。

吉田委員 質問が出たときも、役所側の詳しい人がいれば説明できる。

事務局 何らかの対応をする。

(3)意見交換の進め方

石橋委員 その1~その3まで3つの提案があるので、説明と意見交換をまとめてするのではなく、提案ごとに説明と意見交換をした方が良いのではないかと？

コンサル 前回その進め方で事務局案を提示した。意見交換をまとめた方が、時間の調整をしやすいということで、このような進め方に変更した。

石橋委員 まとめて意見交換をするのであれば、時間を区切りながら進行した方が良い。意見がバラバラに出ると、まとめる人が大変だ。説明は8分ずつにして、意見交換の時間を十分に取ってはどうか。

(4)パワーポイントの内容

①マグネット方式「備える。かわさき」

石橋委員 配布資料に貼り付けたものではなく、原寸大でカラーの物が配れると良い。

コンサル 配布できるように用意する。

吉田委員 「避難場所」「持ち出し品」「緊急連絡先」のほか、「その他」という枠があると良いのではないかと。家庭内で検討して何か記入することがあるのではないかと。

コンサル 8cm×12cmのサイズで記入枠を増やすと、記入できるスペースがかなり小さくなる。「その他」を入れるのであれば、もう少しサイズを大きくすることもある。

石橋委員 マグネットなので、裏面に記入してはどうか。

細埜副部長 裏面を白くし、各家庭に必要なことを記入してくれと解説を付けて配布すれば良いのではないかと。

吉田委員 裏面ではなく、常に目に見えるところに記載したい。

コンサル 3つの項目にしておいて、フォーラムでさらに記載すべき内容があるかどうか意見を求めても良い。

石橋委員 何をそこに書き込むかだ。「その他」ともせず、空白の欄を一つ設けておくということもある。3つは定番で、さらに各家庭で自由に記載する空欄を作る方が、使い勝手がある。

岩崎委員 90度回転させて縦型にすれば、4つの項目を記載するスペースができるのではないかと。

コンサル それでは8cm×12cmの縦型で、空欄を付けた案にする。

②町内会掲示板・広報掲示板方式

吉田委員 多摩区内に何箇所設置するなどは、荒井委員が説明するのか？

荒井部長 区内のすべての掲示板に、避難所を掲示すると考えている。

事務局 掲示板が設置されている位置によっては、複数の避難所を記載しなくてはならない位置もあり紛らわしい。避難すべき避難所が一か所と明らかな位置に設置されている掲示板のみに掲示するというのがこれまでの考え方だ。二つの避難所の境にある掲示板は、避けた方が良い。

吉田委員 一つの避難所につき、その避難区域内にある掲示板には、何か所も掲示されるということが良いのか。

事務局 そのように考えている。

石橋委員 「広報掲示板」の前に「区」を付けた方が良い。また、「・」ではなく「、」にする。

事務局 広報掲示板の正式な名称を調べて訂正する。

原田委員 町内会が避難訓練を実施するときには、かならずこの町内会の避難所はどこ小学校ですということは伝えているので、避難訓練に参加している人は問題がない。

荒井部会長 掲示板を見て、もしも指定された避難所と違う避難所に行っても問題はないか？

吉田委員 あくまでも大体の目安だから問題はないだろう。

荒井部会長 各家庭で、我が家はあそこの小学校に避難しようと決めれば、マグネットにその小学校を書いて良いということか。

大津委員 避難所は各家庭が勝手に決めるものではない。町内会を基本に、あなたの地域の避難所はここだと決められている。それを周知徹底することが目的だ。

吉田委員 自分の避難所を知らない人が大勢いる。マグネットを配布するときに、自分の避難所はどこかと町会に聞いてくる人が出るだろう。

細埜副部会長 配布するときに、自分の避難所がわかるように説明書きを添える必要がある。

吉田委員 マグネットを記載することで、意識が高まる。

危機管理担当 多摩区版防災マップに避難所と避難区域の区割りが載っている。

③回覧板方式

原田委員 裏表紙に記載されても、パンチに紙を挟むので見えなくなる。

コンサル これまでは、表紙裏面に印刷、裏表紙表面に印刷、別紙を貼るという3案があった。

石橋委員 見やすいのは開いたときの右面だ。

大津委員 広告的なものは裏表紙に記載されるのか？

吉田委員 ほとんどが開いたときの右面だ。右面が一番良く見てもらえるということだ。

大津委員 そうなると、防災情報を右面に載せた場合、見てもらえないからスポンサーにはならないという広告主も出て来る。

石橋委員 フォーラムでアイデアを聞けると良い。

コンサル それでは、「裏表紙」という記載を削除し、「回覧板で、防災に関する情報を発信する」とする。

細埜副部会長 チラシを作成するときには、細かい文字は読んでもらえないので、訴えたいことを大きな文字で記載すると良いと教わった。防災に関しても訴えたいことを大きな文字で記載すれば、裏表紙でも目に留まるのではないか。

④身近な防災マップ

細埜副部会長 コンビニエンスストアを記載することにしたが、災害時は商品が散乱し、危険を感じたら店を閉めるそうだ。マップに載せるとかえって混乱する場合もある。そういったことも想定しないといけない。

大津委員 地図の範囲中に「町内会から避難所まで」とあるが、なぜ町内会なのか？

石橋委員 一時避難場所にまず集り、町内会単位で避難所に向かうことを想定している。「町内会」の後ろに「(一時避難場所)」と入れた方が良い。

⑤中・高・大学生との連携

コンサル 前回、「中・高・大学生との連携」については、連携を進める際の具体的な提案を3つくらいしようということだった。防災訓練への参加とHUG以外に、何を提案するか。

石橋委員 ここは「中・高・大学生との連携」という内容だ。HUGは防災意識を高める道具であり、連携を深める提案ではないのではないか？

コンサル 現在、HUGは自主防災組織でしか実施していないが、中・高・大学生などが体験することで、避難所生活というものがどういうものか理解ができるのではないか。中・高・大学生にもHUGの体験を推進しようという意見がこれまでであったのでここに位置付けた。

石橋委員 その内容がわかる表現にした方が良いでしょう。HUGは実体験に近い訓練なのか？

危機管理担当 図上訓練だ。

石橋委員 図上訓練を通じて防災意識を高めるとのことだ。防災意識を高める方法には、マグネットがあり、掲示板があり、回覧板があり、さらに図上訓練がある。提案1に入れた方が座りが良いのではないか。

危機管理担当 意識を高める訓練として、さまざまな図上訓練がある。その例として、静岡県が開発したHUGというものがあると説明した方がわかりやすいだろう。若い人たちにもそういった訓練をして、防災を知っておいてもらいたいという提案だろう。

石橋委員 そういう位置づけであれば、提案3の中に位置付けても良い。

コンサル 他に何を提案するか？

荒井部会長 配布資料「区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう！」の中では、「学生向け防災パンフレットの作成・配布」が検討されている。

石橋委員 ③のHUG体験を図上訓練等として入れるのであれば、残りは②だ。①の意向把握は町内会との調整があるため打ち出せない。

コンサル それでは、「3 中・高・大学生との連携」の具体的な提案は、①中・高・大学生の防災訓練への参加、②学生向け防災パンフレットの作成・配布、③中・高・大学生の図上訓練体験の3つにする。

石橋委員 「区内には3つの大学があり、多くの学生がいる。」という表現はふさわしくない。「多くの学生が生活している」とする。

HUGの紹介は3枚の内容を載せるのか？1つで良いのではないか？

コンサル 配布資料16ページの内容を1枚にまとめる。写真は16ページ下の体験風景を載せる。

大津委員 避難所運営においては、16ページ下の説明の「災害時要援護者への配慮をしながら」の「部屋割り」、「炊き出し」「仮設トイレ」がまさに深刻な問題だ。

コンサル そういった内容がわかるようにまとめる。

意見交換の進め方は、ワークショップ形式等か？

事務局 意見が出やすいような仕掛けが必要だ。出た意見も言いつばなしではなく、まとめて整理できると良い。そういう工夫をしないと、発言しただけで終わってしまう。

コンサル その役割は私がお手伝いする。

石橋委員 アンケートについて、集計する際に、選択肢が「・」よりも「1、2、3」や「ア、イ、ウ」にした方がしやすいだろう。

事務局 今日出た意見で資料を訂正し、11月7日の企画部会で内容を確認、12日の全体会で了承を得て、フォーラムにあたる。

2 その他

岩崎委員が、10月24日（木）に開催された「災害に負けない「自助」を考える」（講師：明治大学政治経済学研究所特任教授 中林 一樹）の当日資料を配り、内容を紹介した。

【スケジュール】

□企画部会 平成25年11月7日（木） 午後6時～

□第6回区民会議 平成25年11月12日（火） 午後6時～

以上